

## 白神十二湖の山開きと安全祈願祭

暖かな気温が続き、桜が見頃を迎えた4月15日、深浦町主催の「白神十二湖山開き及び安全祈願祭」が約100人の出席のもと開催され、東北森林管理局からは、津軽森林管理署及び津軽白神森林生態系保全センターが出席しました。

十二湖は、約300年前の地震による山崩れによって形成された山中湖沼群で、大小30を超える湖沼が点在しています。昨年は約8万人を上回る観光客が訪れるなど、県内有数の観光地となっています。山開きの式典ではテープカットが行われ、併せて執り行われた安全祈願祭では、世界自然遺産白神山地や十二湖を訪れる観光客の安全が祈願されました。



【コバルトブルーの青池】

式典後には、参加者で十二湖を代表する湖沼の一つである青池を訪れました。周囲の木々が芽吹き始め新緑に包まれる中、コバルトブルーで表される青池は、この時期には珍しくコバルトブルーの色彩が際立ち、透明感のある神秘的な景観を見せていました。地元ガイドによると、晴天時に太陽の光が池に差し込むことで、この独特の色合いが現れるとのこと、夏至の頃が最も見頃とされています。

十二湖周辺一体は、ブナ、ナラ、カツラなどの広葉樹を主体とする天然林で、景観的にも貴重な価値を有する国有林となっています。自然休養林、国定公園、保健保安林にも指定されております。



【木々が芽吹き始めた散策路】

そして、多くの散策路が整備されています。山開き前には、観光客の安全確保にも資するよう枯れ木や枯れ枝の有無を深浦町と協力して確認しています。

津軽森林管理署 次長